



全国植樹祭への カウントダウン

〔令和4年5月～6月頃開催予定〕



開催まであと1年となった「第72回全国植樹祭」。
準備が進む中、甲賀市では初となる林業遺産への認定など大変喜ばしいお知らせも届きました。
当日へ向け、オール甲賀で盛り上げていきましょう。

NEWS 1

「緑のしずく祭」 に大原緑の少年団が参加

全国植樹祭1年前記念イベント『緑のしずく祭』が、ビラデスト今津(高島市)で開催されました。

本市からは、大原緑の少年団2人が代表として参加し、全国植樹祭の式典において、農林水産大臣等に緑の少年団が贈呈する苗木を受け取ったほか、参加者による記念植樹が行われました。受け取った苗木は緑の少年団により小学校で大切に育てられ、1年後に開催される『第72回全国植樹祭』の会場(鹿深夢の森)で植樹される予定です。



苗木を受け取る
大原緑の少年団



植樹する
大原緑の少年団

問合せ 林業振興課 全国植樹祭推進室
TEL 69-2199 FAX 63-4592

NEWS 2

まえばきのこ 甲賀の前挽鋸が 林業遺産に認定

甲南ふれあいの館で保管・展示中の「甲賀の前挽鋸製造及び流通に関する資料群」が、一般社団法人日本森林学会によって甲賀市では初めてとなる林業遺産に認定されました。

同館では、前挽鋸や製造道具一式を中心に、流通に関わる文書等が保存されています。これらはすでに重要有形民俗文化財として指定されていますが、森林資源利用や建築文化に進歩をもたらした前挽鋸の技術や流通の様子がよくうかがえることから、林業遺産として相応しいと判断されました。来年本市で開催される全国植樹祭でも、企画展示などで広く県内外へ発信していく予定です。

同館では当時を彷彿させる現物を展示していますので、資料群とともに、甲賀の豊かな森林に育まれた匠の技に、ぜひ触れてみてください。



林業遺産に認定された前挽鋸と製造道具など

甲南ふれあいの館 TEL/FAX 86-7551
月・火曜日、8月13日～15日、年末年始休館

問合せ 歴史文化財課 普及活用係
TEL 69-2252 FAX 69-2293

甲賀市  ×  シンガポールで育む

“共に支えあう”まちへ

新型コロナの影響により、パラリンピック選手団の事前合宿は中止となりましたが、ホストタウンとして、シンガポールと今後も交流を続けていきます。

パラリンピックを契機として障がいの有無や年齢などすべての人がお互いを理解しあい、共に支えあいながら安心して暮らせる『共生社会』の実現へ向け取り組みを進めていきます。



1 パラスポーツ×スポーツ振興と 障がいへの理解

シンガポール選手団との「ボッチャ」体験をはじめ、パラリンピアンとの交流を通じて、誰もが身近に楽しめるスポーツの振興と小中学生への障がいへの理解の推進に今後も取り組みます。

3 ホストタウン×多文化共生の 推進

多くの国々の人が行き交うシンガポールとの交流を通じて、国籍や文化の違いなどに関わらず、あらゆる人々がお互いの人権を尊重しあえる多文化共生社会の実現をめざします。

2 ホストタウン×障がい福祉の 充実

今年度は共生社会ホストタウン推進事業として、「バリアフリーまち歩き点検」でのマップ作成や、心のバリアフリー研修の実施など、障がい福祉のさらなる充実を図ります。



↑マップ作成のための「バリアフリーまち歩き点検」

シンガポールから学ぶ「共生社会の心」

国際交流協会 会長 なかじまのりよし
中島敦芳さん

シンガポールのウィリングハーツといわれるボランティア団体取材されたテレビ番組から「共生」というものを改めて考えさせられる機会がありました。

当団体は毎日9千食もの弁当を困窮者に届ける活動をされています。その取材の中でボランティア団体の創設者であるトニーさんが困窮者との共生について次のように話されていました。

「貧しい人たちは、私たちの貧しい心が幸せにな

るよう助けてくれる。私たちも彼らを助けるけれど、彼らも教えてくれるんだ、人生とは何かを。」

まさにこの“心”こそが共生社会の神髄ではないかと思います。

シンガポールとの交流を通じて、多文化共生、福祉、ボランティアリズムなど、多くのことを学んでいけるような交流を今後も続けていきたいと思ひます。